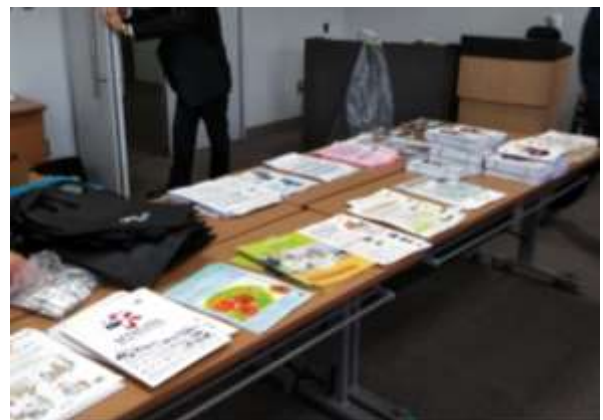


6. 全体記録・資料

(1) 当日の様子

○控室での打合せ・準備



○受付・誘導



○司会・手話通訳



○Thank You, Japan フォトセッション



○パラリンピアンの様子

(左：まちの点検後、取材を受ける／右：会場入場前)



(2) パラリンピアンよりいただいたメッセージボード



Josh Wheeler:

Thank you for hosting us. I look forward to being able to return and learn more about your culture. It's a pleasure to be here.

ジョシュ・ウィーラー選手:

素晴らしいおもてなしをありがとうございます。
また日本に来て、もっと日本の文化を学ぶのが楽しみです。今日ここに来られてうれしいです。



Joe Delagrave:

Thank you for hosting us in your beautiful city!
All the best!

ジョー・デラグラーブ選手:

美しいまちでおもてなししてくださり、ありがとうございます！ 皆さんに幸あれ！

Chuck Aoki:

Thank you Setagaya for hosting us!
We look forward to visiting again!
Go USA!

チャック・アオキ選手:

世田谷区の皆さん、私たちを
おもてなししてくれてありがとうございます！
再び訪れることを楽しみにしています！
頑張れ USA!



Chuck Melton:

Thank you for your hospitality!

チャック・メルトン選手:

おもてなしをありがとうございます！



(3) PR ツール

○ポスター



「共生社会ホストタウン」推進事業

心のバリアフリー シンポジウム

—アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー代表)とともに
まちの点検を通して考える—



令和元年 10月 21日(月)
13:30~16:00 (13:00開場)

**参加
無料**

第一部：講演
(アメリカ代表パラリンピアン)
アメリカ合衆国におけるバリアフリー等の現状を話していただきます。

第二部：パネルディスカッション
(コーディネーター：井上仁氏／日本大学文理学部社会福祉学科教授)
パラリンピアンのほか、日本大学文理学部学生、グリスデイル・バリージョシュア氏、
下高井戸商店街の方にもご参加いただき、まち・心のバリアフリーについて考えていきます。



グリスデイル・バリージョシュア (Barry Joshua Grisdale) 氏
カナダ生まれ。四肢まひ性・脳性小児まひにより、4歳より車いす生活。高校卒業時に父親と一緒に日本に約1か月滞在。平成19年に来日し、平成28年に日本国籍を取得。都内で生活しながら、高齢者施設で勤務し、アゼリーグループのホームページのWebマスターとして活躍しつつ、海外の障害者に向けた日本観光の英語情報サイト(※)を運営するほか、これまでの知識・経験を生かし、国や自治体、企業が行うシンポジウムや講演会に参加する等、活躍中である。
※「ACCESSIBLE JAPAN」<https://www.accessible-japan.com/>

会 場：日本大学文理学部(世田谷区桜上水 3-25-40) 図書館棟3階 オーバルホール
定 員：先着 130名(要申込) ●申込み先：せたがやコール 電話 03-5432-3333/FAX03-5432-3100
(電子申請可 <https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/010/002/index.html>)



●主催：世田谷区 ●共催：日本大学文理学部 ●後援：世田谷区商店街連合会、アメリカ大使館 ●協力：下高井戸商店街振興組合
●担当：世田谷区障害福祉部障害施策推進課



「共生社会ホストタウン」推進事業

心のバリアフリーシンポジウム

— アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー代表)とともに
まちの点検を通して考える—



第一部：講演
(アメリカ代表パラリンピアン)
アメリカ合衆国におけるバリアフリー等の現状を話していただきます。

第二部：パネルディスカッション
(コーディネーター：井上仁氏／日本大学文理学部社会福祉学科教授)
パラリンピアンのほか、日本大学文理学部学生、グリズデイル・バリージョシュア氏、下高井戸商店街の方にもご参加いただき、まち・心のバリアフリーについて考えていきます。



グリズデイル・バリージョシュア (Barry Joshua Grisdale) 氏
カナダ生まれ。四肢まひ性・脳性小児まひにより、4歳より車いす生活。高校卒業時に父親と一緒に日本に約1か月滞在。平成19年来日し、平成28年に日本国籍を取得。都内で生活しながら、高齢者施設で勤務し、アゼリーグループのホームページのWebマスターとして活躍しつつ、海外の障害者に向けた日本観光の英語情報サイト(※)を運営するほか、これまでの知識・経験を生かし、国や自治体、企業が行うシンポジウムや講演会に参加する等、活躍中である。
※「ACCESSIBLE JAPAN」<https://www.accessible-japan.com/>

※手話通訳・パソコンによる要約筆記あり

参加
無料

日 時：令和元年 10月 21日(月) 13:30～16:00 (13:00開場)

会 場：日本大学文理学部 図書館棟3階 オーバルホール
※詳細は裏面参照

定 員：先着 130名(要申込)

申込み：裏面の申込書にご記入の上、FAXでお送りください(電話申込・電子申請も可)。
締切 10月 14日(月) ※定員に達しない場合は、締切後も随時受付します。



主催：世田谷区 共催：日本大学文理学部 後援：世田谷区商店街連合会、アメリカ大使館 協力：下高井戸商店街振興組合
担当：世田谷区障害福祉部障害施策推進課

○配布ちらし 裏面

心のバリアフリーシンポジウム 会場案内

会場：日本大学文理学部（世田谷区桜上水 3-25-40）
図書館棟3階 オーバルホール

交通：京王線・東急世田谷線 下高井戸駅 下車 徒歩8分
京王線 桜上水駅 下車 徒歩8～10分
小田急線 経堂駅 下車 徒歩20～25分

参加申込書

▼送付先/せたがやコール 宛
FAX 03-5432-3100
下記をご記入の上、お送りください。

◇電話でのお申込は 03-5432-3333まで(受付時間 8時～21時)
◇電子申請可 (<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/010/002/index.html>)

締切/令和元年 10月 14日(月) ※定員に達しない場合は、締切後も随時受付します。

参加者氏名	住所	連絡先 TEL・FAX	団体名 ※任意記入	参加する上で、配慮してほしい点(○の欄がある)等をご記入ください。

このちらしは、共済社会ホストタウン推進事業、心のバリアフリーシンポジウム、アメリカ代表バケリンピエアン（@いづらびー 代表）とともにまの森会を通して考える、の案内です。

第一部は講演、アメリカ代表バケリンピエアンに、アメリカ合衆国におけるバリアフリー等の現状を話しさせていただきます。

第二部はパネルディスカッション、コーディネーターは、日本大学文理学部社会福祉学系 井上仁教授、バネラーは、バケリンピエアンのほか、日本大学文理学部学長、グリアデイル・バリージョシア氏、下高井戸商店街の方にもご参画いただき、まちのバリアフリーについて考えていきます。

開催日は、令和元年10月21日(月) 13時30分から18時まで、会場には10名から入ることとなります。


会場は、日本大学文理学部・図書館棟3階オーバルホール。
参加費は無料、定員は先着130名、定員の超過は不可です。
当日は、手話通訳・パソコンによる筆跡写記があります。

参加を希望される方は、10月14日(月)まで、電話、またはFAX、ホームページよりお申し込みください。申込先は、せたがやコール。電話 03-5432-3333、FAX 03-5432-3100。区のホームページは、もちろし、区政情報、オンラインサービス・アプリ、電子申請、よりご確認ください。

定員に達しない場合は随時受付いたします。
FAXでの申込みは、表紙に参加者氏名、住所、連絡先、団体名（任意）、参加する上で配慮してほしい点を記載し、お送り下さい。

グリアデイル・バリージョシア氏
カナダ生まれ、米教員生活・養育小児まひにより、4歳より車いす生活。高校卒業時に父兄と一緒に日本に約1年間滞在。平成19年に戻り、平成28年に日本国籍を取得。国内で生活しながら、登録者施設で障害アスリートグループのホームページのWebマスターとして活躍しつつ、海外の障害者に自らの日本観光の奨励情報サイトを運営するほか、これまでの知識・経験を生かして、区や自治体、企業が行うシンポジウムや研修会に参加する等、活躍中である。

主催 中口谷式、共催 日本大学文理学部、後援 世田谷区商工促進会、アメリカ大使館、札幌 世田谷区障害福祉部障害推進課



ちらし表面に挿入された
音声コードの文章

(4) 当日配布資料 (一般用)


「共生社会ホストタウン」推進事業
心のバリアフリー
シンポジウム
 —アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー代表)とともに
 まちの点検を通して考える—


【日時】 令和元年(2019年)10月21日(月)
 13時30分~16時00分
【場所】 日本大学文理学部 図書館棟3階
 オーバルホール
【主催】 世田谷区
【共催】 日本大学文理学部
【後援】 世田谷区商店街連合会、アメリカ大使館
【協力】 下高井戸商店街振興組合

日の不自由な方のための拡大資料・音声コード付き資料を、別途ご用意しています。

プログラム

開会(13時30分)

○主催者あいさつ 世田谷区
 ○共催等あいさつ 日本大学文理学部
 アメリカ大使館

○第一部 講演

アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー)

- ・ジョー・デラグレーブ (Joe Delagrave) 氏
- ・チャック・アオキ (Chuck Aoki) 氏
- ・ジョシュ・ウィーラー (Josh Wheeler) 氏
- ・チャック・メルトン (Chuck Melton) 氏

○第二部 パネルディスカッション

■パネラー

- ・アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー)
- ・グリスデイル・バリジョシア (Barry Joshua Grisdale) 氏
- ・下高井戸商店街振興組合 理事長 口尾 衛 氏
- ・ラグビー元日本代表主将、俳優 廣瀬 俊朗 氏
- ・日本大学文理学部社会福祉学科 齋 楓花 氏

■コーディネーター

日本大学文理学部社会福祉学科 教授 井上 仁 氏

終了(16時00分)

- 1 -


当日配布資料 (音声コード入り)

「共生社会ホストタウン」推進事業
心のバリアフリー シンポジウム

【日時】 令和元年(2019年)10月21日(月)13時30分から16時00分
【場所】 日本大学文理学部 図書館棟3階 オーバルホール
【主催】 世田谷区
【共催】 日本大学文理学部
【後援】 世田谷区商店街連合会、アメリカ大使館
【協力】 下高井戸商店街振興組合

○プログラム
 開会(13時30分)
 主催者あいさつ 世田谷区
 共催等あいさつ 日本大学文理学部、アメリカ大使館
第一部 講演
 アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー)
 ・ジョー・デラグレーブ 氏
 ・チャック・アオキ 氏
 ・ジョシュ・ウィーラー 氏
 ・チャック・メルトン 氏
第二部 パネルディスカッション
パネラー
 ・アメリカ代表パラリンピアン(車いすラグビー)
 ・グリスデイル・バリジョシア 氏
 ・下高井戸商店街振興組合 理事長 口尾 衛 氏
 ・ラグビー元日本代表主将、俳優 廣瀬 俊朗 氏
 ・日本大学文理学部社会福祉学科 齋 楓花 氏
コーディネーター
 日本大学文理学部社会福祉学科 教授 井上 仁 氏

終了(16時00分)




○登壇者のご紹介

○ジョー・デラグレーブ 氏 (車いすラグビー：クラス 2.0)
 1985年生まれ。 Wisconsin州ラシーヌ出身。 Wisconsin州プレーリー・デュシェイン 在住。 チーム/クラブ: Ability360 Heat
 パラリンピック/2012年ロンドン(銅メダル)
 世界選手権/2010年(金メダル)、2014年・2019年(銅メダル)
 2003-04年にウィリアムズ州立大学でフットボール選手として活躍。2004年7月ポートランドに引っ越し、5人兄弟(3女2男)。兄は Braxton, Brayden, Brynley の3人の子にも恵まれる。趣味は、ハンドサイクリング、キャンプ、旅行、家族と過ごすこと。

○チャック・アオキ 氏 (車いすラグビー：クラス 3.0)
 1991年生まれ。ミネソタ州ミネアポリス出身。ミネソタ州ミネアポリス 在住。 パラリンピック/2012年ロンドン(銅メダル)、2016年リオ(銀メダル)
 世界選手権/2010年(金メダル)、2014年・2018年(銅メダル)
 遺伝性発達障害自立神経性ニューロパシー-type II のため膝から下と腕から下に麻痺があり、人生の大半を車いすで過ごす。11年間車いすバスケットボール選手として活躍した後、2005年の映画「マザーボール」(邦題「殺人球」、車椅子ラグビーのドキュメンタリー)に影響を受け、2009年に国際大会デビュー。2011年に「4人制ラグビー協会最優秀選手賞」を授賞。全米の学校で Classroom Champions のメンバーとして子どもたちの指導も行っている。国際パラリンピック委員会のウェブページにブログ掲載。趣味は、クロスワードパズル、読書、「ゲーム・オブ・スローンズ」、歴史小説、ミネソタスポーツ。

○ジョシュ・ウィーラー 氏 (車いすラグビー：クラス 2.5)
 1980年生まれ。カルフォルニア州サクラメント出身。アリゾナ州ツーソン在住。 パラリンピック/2016年リオ(銀メダル)
 世界選手権/2014年・2018年(銅メダル)
 2006年オートバイで走行中、車と衝突。首を骨折、下半身不随となり、右腕と手の一部も動かない。11人兄弟(男女5人)。既婚。スペイン語が堪能。





Joe Delagrave
Wheelchair Rugby
Team USA

Next year, my teammates and I will travel to Japan to compete in wheelchair rugby at the Tokyo 2020 Paralympic Games. This will be my second Paralympic Games. I am excited to compete and have the chance to return to a country with so many incredibly welcoming and respectful people.

I have had the honor of representing the United States in the sport of wheelchair rugby for 11 seasons and have been a co-captain for six. It has been an amazing experience filled with many highs and lows. Over that time, my Paralympic goals have evolved and grown. When I first started playing, I simply wanted to make the team. After accomplishing that, I aimed to win a medal.



ジョー・デラグレーブ
車いすラグビー アメリカチーム

来年、私たちは、東京 2020 パラリンピック出場のために日本へ行きます。私にとっては、2 度目のパラリンピックになります。

日本人は、とても礼儀正しく、以前来日した際も我々を暖かく迎えてくれました。その日本で再びプレーすることになりとてもうれしいです。

私は、11 シーズンに渡りアメリカ代表チームに所属し、そのうち 6 シーズンは、キャプテンを務めました。浮き沈みの激しいスポーツ生活でしたが、素晴らしい経験でした。この間、私のパラリンピックに対する目標も変わって行きました。初めは、チーム入りすることだけしか考えていませんでしたが、メンバー入りが実現すると、今度は、メダル獲得が目標になりました。

My teammates and I were completely focused on that goal and played hard at the London 2012 Paralympic Games. We were honored to play the talented Japanese team in the bronze medal game, and we were able to pull out the win and bring home the bronze medal. Then, in 2016, I didn't make the team. It was devastating, but I cheered on my teammates and was so proud when they won the silver medal. Now, as we look to Tokyo, our goal is on winning gold, and above all, doing so with honor and integrity. There are many talented teams, including the Japanese Team, and we look forward to strong competition and exciting games in Tokyo next year.

Off the field of play, as a person living with a disability in the United States, most of the time I can live a normal lifestyle, in part, thanks to the Americans with Disabilities Act (ADA). The ADA is an American civil rights law that prohibits discrimination against those with disabilities. However, I still face every day challenges that can make daily life burdensome. Just a few examples: crossing small curbs on streets, dealing with difficult parking or navigating bathrooms that are too small.

2012年のロンドンパラリンピックでは、チーム全員がメダル獲得のために懸命にプレーしました。三位決定戦では、光栄にも優秀な日本チームと対戦。我々は、勝利し、銅メダルを本国に持ち帰ることができました。

ところが、2016年のパラリンピックでは、私は、メンバーに選ばれませんでした。絶望しましたが、それでもチームを応援し、アメリカが銀メダルを獲得した時はとても誇らしかったです。

東京2020では、金メダルが目標です。そして、何よりも誠実に誇りを持って戦い、金メダルを手に入りたいです。日本チームをはじめ、世界には、沢山の優秀なチームが存在します。来年、東京では、激しい競争とエキサイティングな試合が繰り広げられると思います。とても期待しています。

パラリンピアンとしてではなく、障害を抱えた一人のアメリカ人としては、ADA法（障害を持つアメリカ人法）のおかげでほぼ普通の生活を送ることができています。それでも、日常生活にしばしば支障をきたしています。例えば、道路のカーブが支障になったり、駐車場が困難だったり、トイレが狭すぎたりなどです。

But I choose to let these challenges be motivation for me to be a part of the solution, and to push for better access and equal opportunities for people living in America with disabilities.

We can all choose to be a part of the solution, regardless of what challenges life puts in front of us. Just like my athletic career has had its ups and downs, life doesn't always go the way we want it to. But every day we wake up with a choice to take one step closer to our goals. I truly believe it is through adversity that we grow and learn the most.

It is my hope that the citizens of Setagaya are inspired by the grit and determination of Team USA, Team Japan and all of the athletes competing at the 2020 Olympic and Paralympic Games. Japan is a country that has embraced my teammates and me, that has been welcoming and gracious and done so much for the advancement of the Olympic and Paralympic movements. Thank you to the city of Setagaya for hosting Team USA during the Tokyo Games. We are so grateful for the hard work that's going in to preparing for the Games, and for the enthusiasm the people of Japan have shown in welcoming us. We look forward to seeing you soon!

しかし、私は、こうした毎日直面する「困難」を「チャンス」と捉え、障害者にとってより便利な環境づくりや平等な機会を実現させるために役立てたいと思っています。

私たちは、人生で様々な問題に直面します。それがどのようなものであっても、「困難」を「解決の糸口」に変えることができます。私のスポーツ人生にも浮き沈みがありました様に、人生は、必ずしも望むように行くとは限りません。しかし、毎朝、私たちが新しい一日を始める時に、自分の目標を達成することに一歩でも近づくことができるように自分で決めることができます。人間は、逆境を乗り越えることによって成長し、最も多くのことを学ぶことができるのだと心から信じています。

2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会に出場するアメリカ代表チーム、日本代表チームをはじめとする全ての選手たちの情熱と決意が世田谷の人々を感動させることを願っています。日本は、オリンピック・パラリンピックの発展に大変貢献し、また、私たちチームを温かく受け入れてくれた国です。

世田谷区の皆さん、東京 2020 では、TEAM USA をサポートしていただきありがとうございます。日本の皆さんがオリンピックの準備に尽力し、また、私たちが歓迎してくださることに心から感謝しています。来年お会いするのを楽しみにしています！